様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　22 年　4　月　28　日現在

研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2007　～2010 年度
課題番号：１９２０３０２７
研究課題名（和文）
　公共圏の創成と規範理論の探究－現代的社会問題の実証的研究を通して
研究課題名（英文）　The Creation of Public Spheres and the Exploration of Normative Theories: based on empirical studies of contemporary social problems

研究代表者:
　船橋　晴俊　（FUNABASHI HARUTOSHI）
　法政大学・社会学部・教授
　研究者番号：２０１１１４４５

研究代表者の専門分野：社会学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：公共圏、規範理論、社会問題、熟議民主主義、現代社会、環境問題、メディア、グローバリゼーション

１．研究計画の概要

本研究の目的は、現代社会に生起しているさまざまな社会問題の実証的研究を通して、新しい公共圏の創成の可能性と規範理論を探究することである。本プロジェクトの特色を、現代社会の重要な社会問題群に対する実践的アプローチ、多様な問題領域に対する共有された理論的関心（公共圏論と規範理論）による統合的アプローチ、実証性と理論性との融合、という三つの論点に即して説明する。

（1）現代社会にとっての重要な社会問題群に対して問題解決を志向しつつ実践的にアプローチする。

現代の日本および世界が当面する重要な社会問題群として、グローバリゼーションと異文化接触に伴う諸問題、ローカルコミュニティから地球レベルにいたるさまざまな環境問題、メディアの発達・普及と情報化の進展の引き起こす諸問題、これら急変する社会システムの下での若者やハンディキャップを有する人々の直面している困難さなどの諸問題があるが、これらの諸問題の解明と解決のために、社会諸科学の実践的力を発揮することを志向していく。

（2）多様な問題領域を統合する共有の問題関心として「公共圏の創成と規範理論の探究」を設定し、現代社会に総合的にアプローチする。

「公共圏」概念は、ハーバーマスの労作『公共性の構造転換』以後、大きな注目を集めている。また、「規範理論」の探究は、20 世紀の終盤以降、ロールズの『正義論』を一つの契機として、広範な関心が寄せられつつある。しかも「公共圏」と「規範理論」は内的に相関している。一方で、公共圏を形成するための規範的原則を意志決定手続や討議倫理に即して探究する必要があり、他方で、開かれた討論空間としての公共圏の存在は、普遍性のある社会的規範の探究と定義の根拠となるものである。

（3）社会問題の詳細な個別的・実証的研究を通して、具体的政策提言の平面と理論的平面で同時に実践性のある研究成果を目指す。

本プロジェクトの基本的な方法意識は、まず、詳細なフィールドワーク型調査によって個別の社会問題の特徴とそれを生みだすメ

カニズムを解明することである。その上で、それぞれの問題をとりまく社会関係や社会システムを、公共圏論の視点から検討し、どのような公共圏の在り方が、それらの問題解決の鍵になるのかを探究する。さらに、詳細な事例分析と公共圏論や社会システム論との対話を通して、規範理論の探究を目指す。その際、実践的有効性と直結する具体的な政策提言という平面と、規範的原則についての基礎理論的な平面を往復運動しながら、同時平行的に考察を進める。

２．研究の進捗状況

以上のような構想のもと、本プロジェクトは社会学を基軸としながら、さらに教育学、政治学、経済学等の専門家との協働と連携を生かしつつ取り組まれている。研究態勢としては、基礎理論の領域での検討を分担する「基礎理論」班、及び、７つの個別具体的な問題領域を扱う７つの班を組織した。すなわち、「グローバル化と市民的公共圏」班、「移民・マイノリティと社会規範」班、「メディア公共圏と社会規範」班、「ユビキタス社会と社会規範」班、「環境問題と社会規範」班、「若者問題と社会規範」班、「ケアと社会規範」班である。これらの班に、研究代表者と研究分担者の合計３２名が分属して研究に取り組んでいる（2009 年度）。各班毎にフィールドに即した調査研究を行い、その成果を論文集にまとめることを活動の基本としているが、2009 年度末までに、各班毎の単独論文集５点と、複数班を横断するかたちでの論文集２点を作成した。2007 年度から 2009 年度にかけては、各班ごとの研究会のほかに、公開研究会を８回開催しその記録集を作成するとともに、各班毎の成果を各種の資料集としてまとめてきた。これらを基盤にシリーズ単行本の執筆に取り組んでおり、2009 年に一冊を刊行したが、現在、引き続き、「若者問題班」「移民・マイノリティ班」「基礎理論班」「環境問題班」の単行本企画の具体化に取り組んでいる。

３．現在までの達成度

総括的にみれば、「②おおむね順調に進展している」。

個別の社会問題を研究する七つの班は、継続的に活動を続けており、その結果、2007-2009 年度までに科研費報告書として、論文集７冊、公開研究会記録集７冊、資料集・翻訳２点、資料集・問題別年表８点、聞き取り記録１点を作成することができた。それをふまえて、共著、単著、編著単行本などを公刊している。

４．今後の研究の推進方策

２０１０年度は、最終年度になるので、これまでの研究をとりまとめ、総合的知見を生み出すべく、次のような取り組みをしていく。

第１に、「公共圏の創成と規範理論の探究」を主題とした国際シンポジウムを５月２３日に法政大学多摩キャンパスにて実施する。

第２に、各班ごとの研究成果を単行本として刊行していく。具体的には、2010 年度中に、基礎理論班、若者問題班、移民・マイノリティ班の３冊の単行本を刊行するとともに、環境問題班の単行本２冊の準備を進める。

第３に、各班の研究成果をふまえ、知見の総合化を推進するために「理論的総括班」を形成し、各班の代表者あるいはそれに準ずるメンバーに参加してもらい、総合化のための研究活動を行う。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 96　件）

〔学会発表〕（計 25　件）

〔図書〕（計 25　件）

① 三井さよ,2010,『看護とケア』角川学芸出版,190 頁
② 佐藤成基編,2009,『ナショナリズムとトランスナショナリズム－変容する公共圏』法政大学出版局,348 頁
③ 宇都宮深志・田中充編著,2008,『自治体環境行政の最前線』ぎょうせい,362 頁（pp.38-79,pp.338-339）
④ 舩橋晴俊・石坂悦男編,2008,『公共圏の創成と規範理論の探究（論文集Ⅰ）』科研費報告書,143 頁
⑤ 奥武則,2007,『論壇の戦後史 1945-1970』平凡社,266 頁